

1 概要

AHK 版かんざしの特徴

AutoHotkey(AHK)版「かんざし」Version 0.3 は、2001 年で更新が止まっていた串刺し検索ツール「かんざし」Version 0.2 の後継にあたるバージョンです。v0.2 は EXE ファイルでの公開でしたが、v0.3 は AHK 用のスクリプト(ソースコード)の形で公開しています。AHK を導入済みの Windows 環境でお使いください。

以下、本書では、以前のバージョンのかんざしのことを「スタンドアロン版かんざし」と表現します。

AHK 版かんざしの主な特徴は次のとおりです。

さまざまな辞書ソフトや Web サイトを串刺し検索

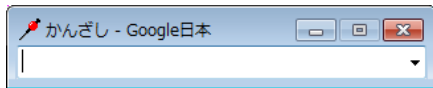
複数の辞書ソフトや Web サイトを 1 回の操作でまとめて検索でき、語句入力の手間を省きます。



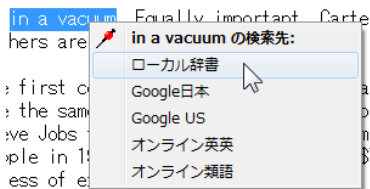
3 種類のインターフェイスを標準装備

3 種類のインターフェイスを使い分けることで、状況と目的に合った検索をすばやく実行できます。

- ◆ 入力ウィンドウ



- ◆ ポップアップメニュー



- ◆ ホットキー発検索

(語句を選択した状態で特定のキーを押すことで検索を実行する機能です。Ctrl+C で語句をコピーできるアプリケーションのほとんどで動作します)

Web 検索機能と辞書グループ機能を強化

v0.2 に比べ、Web 検索機能と辞書グループ機能を強化しました。Web 上の検索サイトや辞書サイトを検索先として追加できます。Windows 上の辞書ソフトと Web 上の検索先を同じ辞書グループに混在させることも可能です。また、検索結果の URL に検索語句が含まれないタイプの Web サイトも検索可能です。

検索作業を効率化

アプリケーション上で選択中の語句を入力ウィンドウに取り込んだり、Web 検索した語句を引用符囲みに変換して再検索したりなど、検索作業時のキー入力と手間を減らすことができます。

また、Web 検索の結果をブラウザのどのタブで開くかを指定できる機能や、検索先の辞書ソフトを自動で起動してから検索する機能も備えています。

プログラミングの知識がなくても大丈夫

通常、AHK のスクリプトで辞書検索や Web 検索を行うためには、プログラミングの知識が必要です。しかし AHK 版かんざしは、プログラミングをご存知ない方でも、設定変更や基本的なカスタマイズを行えるようになっています。テキストエディタさえ使えば、あとは単なるコピーや、ごく簡単な記述のみで大丈夫です。

スタンドアロン版かんざしの「★のドラッグ & ドロップ」に代わる、「Ctrl+Alt+中ボタン」という機能もあります。

プログラミングの知識を生かした細かなカスタマイズも可能

プログラミングをご存知の方は、かんざしのヘルパー関数と、AHK の組み込み関数・コマンド・ロジックを組み合わせ、単なるコピーにとどまらない、細かなカスタマイズや機能拡張を加えることができます。

たとえば、独自の検索処理のスクリプトを辞書グループの検索先として追加したり、選択語句の種類に応じてホットキー発火検索の検索先を自動で切り替えたり、かんざしを簡易ランチャーとして使ったりなど、さまざまな拡張が可能です。

本書の後半には、こうしたカスタマイズのサンプルプログラムや、ヘルパー関数のリファレンスがあります。

従来のかんざしから簡単に移行

スタンドアロン版かんざし(v0.2)の動作環境をそのまま AHK 版かんざしに移行するためのツールを用意しました。**(※α 版の段階では未公開です)**

また、スタンドアロン版よりカスタマイズ性が高まっていますので、これまで検索できなかった辞書ソフトにも対応できる可能性があります。